

平成24年7月29日
今週のベストショット



雁レクD 奈多クラブ 対 新町パイレーツ戦
奈多クラブ打線を一安打完封した新町パイレーツ吉田崇浩投手。
(写真：奈多フェニックス 今林文彦)

青松園A

塩浜ジャガーズ（4勝4敗0分）0 6 3 1 0 1 0 内田○一堀内

新町ウインズ（2勝6敗1分）3 0 0 0 4 7 早田、城戸●一今林

HR：荒木（塩浜ジ）桐島司（新町ウ） 2BH：稲富（塩浜ジ）今林、城戸（新町ウ）

一回裏ウインズは一死後、連続四球で一二塁とすると、4番城戸選手のライン際の打球を三塁手のエラーで先制する。続く5番野中選手がレフト前タイムリー、その後も1点を追加して幸先よく3点を先制した。3点を追うジャガーズは二回表、一死後3連続四球で満塁。ここで8番道喜選手が代わったばかりの城戸投手の前にスクイズ（内野安打）を決めてまず1点。9番荒木選手も四球を選び押し出で2点目をあげるとワイルドピッチで同点に追いつく。さらにパスボール、1番田中選手のレフト前ヒットと2番稲富選手の二塁打と続き、この回一挙6点をあげた。三回表には、9番荒木選手の左中間3ランも飛び出し点差を広げた。二回以降、単調な攻撃を繰り返していたウインズは、五回裏、9番早田選手が死球で出塁すると、1番桐島（司）選手がレフト柵越え本塁打、4番城戸選手の二塁打等で4点を返し意地を見せたが、二回の早田投手の突然の乱調から変わった流れを取り戻すことはできなかった。（記事、写真：ブルーマーリンズ 友重正司）



一回裏、ウインズ野中選手はレフト前ヘタイムリー打を放つ。



二回表、ジャガーズは、道喜選手がスクイズを決める。



二回表、一死満塁でリリースした城戸投手だったが……。



二回表、レフト前タイムリー打の田中選手が二盗に成功。



三回表、3ラン本塁打を放ったジャガーズ荒木選手。



フェンス越え本塁打で意地を見せたウインズ桐島(司)選手。

青松園B

雁ノ巣ライナーズ (5勝1敗2分) 105000 6 樽野○ー鳥越

ソルトベスターズ (3勝6敗1分) 211000 4 鶴野●ー酒井

HR: 明瀬、三宅(雁ノ巣) 中村耕一郎 (ソルト) 2BH: 池内史彦 (雁ノ巣)

優勝争いに残る為には負けられないライナーズと勝数を増やしたいソルトベスターズの先発は、ソルト鶴野投手、ライナーズは樽野投手。一回表ライナーズは2番池内、3番中口選手が右前で出塁すると、4番樽野選手が左犠牲フライを放ちキッチリ先制。その裏ソルトは中前で出塁した3番鶴野選手を4番中村(耕)選手が左翼横を抜けるHRで返しすかさず逆転。二回裏もソルトは内野安打の6番森(哲)選手を8番田中(裕)選手が右前ヒットで返し2点をリード。流れはソルトに傾いていたが、三回表ライナーズはその流れを引き戻す。先頭の鳥越選手が出塁し3番中口、4番樽野選手のタイムリーで同点とすると、6番明瀬、7番三宅選手が連続HRでこの回一挙5得点を挙げた。その裏ソルトは1点を返すが、その後両投手が踏ん張りゲームセット。先制されながらも、落ち着いた試合運びで逆転劇を演じたライナーズは見事。また、暑い中に好ゲームをした両チームの選手の皆様、お疲れ様でした。(記事: 三友クラブ 駄原孝一郎、写真: 大坪和則)



一回表、ライト前を放つライナーズ3番中口選手。



一回表タッチアップでホームに戻るライナーズ池内選手。



一回裏、逆転HRを放ち祝福を受けるソルト中村(耕)選手。



二回裏、ライト前タイムリーを放つベ이스ターズ田中(裕)選手。



三回表左越えHRを放ち激走するライナース明瀬選手。



三回裏、内野ゴロの間に生還するソルト中村(建)選手。



四回表、バンドを一塁送球するソルト真弓選手。



六回裏、セカンドからの送球を受けるライナース久保田選手。

雁レクD

奈多クラブ (2勝6敗0分) 00000 0 吉田貴史●-高瀬

新町パイレーツ (7勝2敗0分) 5012x 8 吉田崇浩○-桐島

HR: 桐島 (新町パ) 3BH: 桐島 (新町パ)

パイレーツは一回表、制球に苦しむ奈多クラブ先発吉田投手から2つの四球を選ぶと4番桐島選手の右中間への三塁打で2点を先制し、さらに7番石橋選手のレフト前の適時打などで一挙5点を奪う。一方パイレーツ先発の吉田投崇浩手は初回から伸びのあるストレートで奈多クラブ打線を全く寄せ付けない完璧な立ち上がりを見せる。四回裏にはパイレーツ2番升井選手の内野安打からまたも4番桐島選手がレフトオーバーの鮮やかな本塁打を放ち2点を追加。終わってみればパイレーツ吉田投手は奈多クラブを1安打に抑え完封ゲーム、初回の攻撃が試合を決めた。(記事: 奈多フェニックス 今林文彦)



2安打4打点と活躍したパイレーツ桐島選手。



パイレーツ吉田投手は完璧なピッチングを見せた。

奈多グラウンド

三苫ホーネッツ（7勝1敗1分） 1 0 3 0 1 5 井手、矢野—松尾

三苫三球会 （6勝1敗3分） 0 0 2 3 0 5 吉留—藤澤

3BH：渡辺（三球会） 2BH：堺（三苫ホ）永吉（真）（三球会）

一回表、三苫ホーネッツは1番矢野、2番山崎選手がバントヒットで出塁すると、バッテリエラーを誘い1点を先取。その裏三球会も先頭の藤澤選手の四球から2番渡辺選手の送りバントで一死二塁とするも後続が凡退。続く二回裏、三球会は一死から6番小倉選手がヒットで出塁し盗塁を試みるが、ホーネッツ松尾捕手の強肩に阻まれる。ホーネッツは三回表一死から4連続安打と犠牲フライで一挙3点を追加。しかし三球会も三回裏、9番右山選手の内野安打、2番渡辺選手の三塁打でまず1点、更にワイルドピッチで2点目を返し必死に食らいつく。更に4回裏、三球会はそのままの勢いで4番永吉選手が二塁打で出塁。ここでホーネッツは先発の井手投手から2番手の矢野投手へ継投策をとるものの8番堺達也選手、9番右山選手、1番藤澤選手と三連続タイムリーを浴び、三球会に逆転を許す。しかしホーネッツは五回表二死—三塁のチャンスに一塁ランナーの松尾選手がスチールを敢行、セカンドへの送球間にすかさず三塁ランナーの稲葉選手がWスチールでホームインし、同点に追いつき試合終了。全体を通して、取ったり取られたりと流れが必ずどちらかに傾くと思われたが、両チームとも最後まで相手に流れを渡さず面白く見応えのある試合だった。（記事：御手洗文男、写真：肥喜里一征）



三苫三球会の先発、吉留投手。



三苫ホーネッツの先発、井手投手。



一回表、ホーネッツ先頭矢野選手のバントヒット。



一回表、WPで矢野選手が先制のホームイン。



二回裏、センター前に運ぶ三球会6番小倉選手。



二回裏、ホーネット松尾捕手が盗塁を阻止する。



三回表、中越え二塁打を放つホーネット塚選手。



三回裏、三球会渡辺選手の三塁打でまず1点を返す。



四回表、負けじと三球会藤澤捕手が盗塁を阻止する。



四回裏一死満塁、塚二塁手から好返球で6点目を阻止。



四回裏、逆襲へ向けた三球会永吉(真)選手の二塁打。



四回裏、三球会藤澤選手が三遊間に逆転のタイムリーを放つ。



五回表、同点に繋がるホーネットス稲葉選手のセンター前。

第16週編集後記

WSLの皆さん、こんにちは！

梅雨が明けての晴天の下。4試合が行われました。

青松園Aの塩浜ジャガーズ対新町ウインズ戦は、先制したウインズでしたが、中盤で逆転され、最終回の反撃空しく10-7でジャガーズの勝利。ジャガーズ二回表の6点は相手早田投手の乱れからもらったような得点でしたが、三回表ジャガーズ9番荒木選手（18歳）の3ランが真の勝利打点でしょう。ウインズの1番桐島司選手の青松園Aでの柵越えとは凄い飛距離ですね。

青松園Bの雁ノ巣ライナーズ対ソルトベイスターズ戦は、先制したライナーズをすぐさま逆転したソルトでしたが、三回表にライナーズ赤瀬、三宅選手の連続HRを含む四本の長短打を集中され、6-4でライナーズが勝利。前半は点の取り合いの様相を呈していましたが、後半は両投手・野手陣が踏ん張る展開でした。

雁レクDの奈多クラブ対新町パイレーツ戦は、パイレーツ吉田投手の前に奈多クラブ打線は1安打無死四球で抑え込まれ0-8でパイレーツの勝利。打撃の方では、先制の三塁打とダメ押し2ランを放った桐島涼選手の活躍が光りました。桐島兄弟はチームは違えどアベックHRですね。

奈多グラウンドのもう1敗もできないチーム同士の三苦ホーネットス対三苦三球会戦は、実力をもった両チームの攻防らしく5-5の引き分け。三球会吉留投手に10安打を浴びせたホーネットス打線でしたが、最終回も勝ち越すまでには及びませんでした。

7月を終えて、夏真っ盛りの8月に突入します。

ロンドンオリンピックも盛り上がりを見せていますね。特に男女のサッカーは順当に勝ち上がっています。ただ、野球とソフトボールが今回の競技種目に入っていないのが悔しいですね。

メダルラッシュに沸く日本代表を応援しつつ、WSLも盛り上げていきましょう。

夜更かししてプレーの質が落ちないように！

また、水分補給と栄養管理が特に大切なこの時期。

汗とともに水分、ビタミン、ミネラルが流れてしまいます。例えばカルシウムとマグネシウムが不足してバランスを失ってしまうと、結果として筋肉が痙攣したり、足をつったりします。

なので、日ごろから十二分な栄養と水分を取っておく必要がありますよ。

食欲が落ちるこの時期は、ドリンクやサプリメントで補充するのがお手軽ですね。